

**第29回 貧困の連鎖対策研究会 兼
NPO法人「子どもへの学習支援基金」第15回勉強会
議事録**

日時：2021年1月20日（水）午後6時～7時

場所：Zoom

**特定NPO法人八王子つばめ塾理事長 小宮位之 様 講演
「コロナ禍における塾生の状況と、つばめ塾の活動」
※資料あり**

八王子つばめ塾では、経済的に苦しいご家庭の中高生を対象に無料で学習支援を行っています。高校で世界史を教えていた経験を基に、一番最初は先生1人・生徒1人から始まりましたが、2013年10月にNPO法人化し、2019年11月には認定NPO法人になりました。現在は八王子市内に6教室あり、生徒数45名、ボランティア講師が55名います。

昨年の緊急事態宣言時（2020年3月～6月）、学校は休校となり、子ども達には学校からプリントが配られたただけでしたので、この3か月間は各家庭での学習力が問われた期間でした。というのも、つばめ塾にきている子の保護者で減給のないリモートワークをしている保護者は少なく、仕事が減る＝収入が減って経済的に厳しくなったか、あるいは必ず出社しなければならなくて子どもとの時間がとれない、いずれかのご家庭がほとんどでした。また、給食もなくなったことから子どもの昼食が新たな負担となりました。

同時期、つばめ塾は閉鎖しました。オンラインでの授業実施も検討しましたが、Wi-Fiがないご家庭が2割、スマホを持っていないご家庭が1割あって、オンライン授業を行う環境が整っていないご家庭があることと、時期的に入ってきたばかりのお子さんもいて、まだ信頼関係が構築できていないことから、オンライン授業は断念し、全塾生に対して前学年や場合によっては前々学年の問題集を送って各自で学習してもらいました。

更にフードバンク活動もしていたので、困窮家庭には食料を送りました。

緊急事態宣言開けの6月以降は、つばめ塾でも感染対策を徹底し、順次再開しましたが、教室として利用している公民館の定員が半数に減らされたことから、中三生を優先し、中二生の授業はすぐには再開できませんでした。公民館の定員が減らされたにもかかわらず利用料金は変わらず、八王子の市議会議員にも問い合わせましたが現在も同額のままです。それから中古PCの貸し出しを始め、10家庭に提供しました。

塾生の中には、感染を恐れて来ない子もいます。そのため生徒数が2019年は70名でしたが、今は45名に減りました。

この頃、1人10万円の定額給付金が支給されたことで助かったご家庭もあったようです。

夏休みは、例年は2日間朝から夜まで学習する「夏合宿」や1週間の「夏期講習」を行っていましたが、規模を縮小せざるを得ませんでした。また、学校見学や文化祭などのイベントがなくなったことから、子ども達の進学への意欲が遅れている感じを受けま

した。

また、講師への応募が多くありましたが、公民館の定員制限や密を避けるために断ることになりました。

9月以降は、中二生の授業を中三生の半分、今までは週2日（4時間）だったのを週1日（2時間）にして開始しました。

2学期に入ると学校によって進度がバラバラで、学習のスピードが速い学校の子は授業についていくのが大変で、逆にゆっくりやる学校の子は入試までに終わるのかと心配していました。そして学校行事もほとんど中止になる学校もある一方、反対に全行事を詰め込む学校もあったりして、子ども達は大変そうでした。

そして今年（2021年1月）、再び緊急事態宣言が発出されたため、夜間の授業を中止して、土曜の昼間に場所を限定して実施している状況です。以前は先生1に対して生徒3でやっていましたが、現在は先生1に対して生徒17で行っています。

塾生に対してオンライン授業についてどのように考えるか質問してみたのですが、93%の生徒が「対面がいい」と回答しました。というのも直接教えてもらいたいというのはもちろんのこと、家が狭くて、特に兄弟が多いと自宅では勉強に集中できない、移動することで勉強することへの意識の切り替えができるからということでした。このことから、学校や塾で学ぶということには大きな価値があることを実感しました。

また、リモート学習についてですが、人によってPCスキルが異なるので、問題が発生したときにすぐに対処できるかどうか重要です。学校によってはリモート学習の際には必ず近くに保護者がいることを条件にしているところもあると聞いています。

無料塾は、単に知識や勉強を教える場というだけではなく、直接人と交流することで学習意欲を高めあうことができる場であり、リモート学習では得られないところに存在価値があると言えるのですが、新型コロナによって「密」を禁じられている今、厳しい状況にあると言えます。

最後に寄附金についてですが、ありがたいことに例年より増えていて、月に約60名からご寄附をいただいています。だからといって財政的に潤沢であるとはいえません。というのも私のところでは奨学金を5つ（中学生奨学金・高校生奨学金・教科書奨学金・資格チャレンジ奨学金・大学生奨学金）出していて、特に大学生奨学金、つばめ塾でボランティア講師をすることを条件に月額2万円を返済不要の奨学金として支給しているのですが、その希望者が増えているからです。財政的余裕はありませんが、奨学金を出すために国・都・市などの公的な補助金や助成金はもらわないことにしています。

八王子市には生活保護家庭やひとり親家庭を対象とする「はち☆スタ」という無料塾があるので、つばめ塾としては民間団体の良さを活かすために、行政の対象から外れている子ども達を受け入れたいと考えています。そのため、八王子市とは連携していません。そのため、塾生も縁故・知人からの紹介が多いです。

八王子市などの多摩地域と比べると23区には無料塾は少ない。理由は所得の違いだと思います。

都立高に進学しても、大学に進学する子は2～3割程度です。卒業後は専門学校に進学する子が多くて、就職を希望する子も15～20%程います。専門学校に行く子は、手に職をつけてすぐに働きたいと考えています。

衣食住の安定は学習意欲の安定につながります。貧困家庭では特に食料を希望していて、長期にわたって支援を続けることで将来的に格差が解消できるのではないかと思います。またキャリアデザインについては、実体験ができればと思います。実際に仕事をした結果、給料はこれだけもらえるといったことについて、子どもはとても興味をもっていると感じています。

全国にはたくさん私の弟子がいるので、どんどん無料塾を増やしていきたい。また、毎年卒論のテーマにしてくれる学生がいるので、その人たちにも期待したいです。

以上

●次回勉強会

2021年2月24日（水）午後6時～ Zoom

ともしび at だんだん（だんだんこども食堂）代表理事 近藤博子 様 講演

コロナ禍における塾生の 状況と、つばめ塾の活動

認定NPO法人八王子つばめ塾理事長 小宮位之

八王子つばめ塾とは

- ▶ 経済的に苦しいご家庭の中高生のために無料で学習支援を実施。
- ▶ 2012年9月に任意団体として設立。2013年10月にNPO法人化
2019年11月に認定NPO法人に。
- ▶ 現在、八王子市内に6教室。生徒45名、ボランティア講師55名。

2020年3月～6月の状況

▶ 塾生

学校からはプリントなどしかもらえず、学習はほとんど進まない状態

▶ 家庭

「勤務先の仕事が減らされて、収入が減って厳しい保護者」と、介護職やスーパーの店員など、「必ず出社しなければならない保護者」の二極化が激しい。

給料が減らずにリモートワークの家庭は殆どいなかった。
→リモートワークができて、家にいられる家庭との差を嘆く声。

就学援助をもらう家庭からは「昼食代がそのまま負担増となり、食費、光熱費が急増して苦しい」との声。

2020年3月～6月の状況

- ▶ つばめ塾
全面閉鎖。問題集を購入し全塾生に送付。前学年の復習を頑張ってもらおう。

悩んだ末、オンライン授業は実施せず。

理由①オンライン環境が整っていない家庭もあった。

②対面の良さこそがつばめ塾の強み。

③信頼関係が構築される前に実施はできない。

困窮家庭にはパスタやお米を宅配便にて送付した。

2020年6月以降～（緊急事態宣言明け）

▶ つばめ塾

感染対策の徹底し、利用できる公民館から順次再開
定員が半分に減らされるものの、利用料金は変わらず、、、
（市議会議員に問い合わせしました。）
中3生を優先。中2生はまだ授業開始できず、、、
中古パソコンの貸し出しを開始

▶ 塾生

感染への恐れから、来ない生徒あり。

▶ 家庭

1人10万円の給付金で、一息ついた感あり。
家族で20～80万も一度に入ってくることはほぼないため、助かった家庭もあった模様。

2020年 夏休み

▶ つばめ塾

夏合宿、夏期講習を、例年より規模を縮小して開催。
緊急事態宣言の3か月間ぶん、学習がごっそり遅れている
イメージ

▶ 塾生

中2生の問い合わせは断らざるを得ない状況に
2019年に70名だった塾生が45名に。

高校の見学会、文化祭が激減し、モチベーションを上げる
機会を得られない状況は、ダメージ大。

2020年9月以降

▶ 塾生

中2生の授業を開始（ただし、中3生の半分の授業時間）

2学期に入り、学習のスピードが早い学校は、「ついて行くのが大変」で、逆にゆっくりやる学校は「入試までに終わるのか心配」との声が聞かれた。

行事をほとんど中止（もしくは入試以降にやる）学校と、全行事を詰めこむ学校に分かれ、どちらにしても「行事がなくてつまらない」か、「行事が多くて大変」のどちらかに、、、

2021年1月 緊急事態宣言後

- ▶ つばめ塾
夜間の授業を全面中止し、土曜日昼間に「駅前教室」と「南大沢教室」に集約して4時間ずつ授業を実施。1週間の授業時間は何とか確保。
- ▶ 塾生
オンライン授業を希望するか聞いたところ、93%の生徒が「対面がいい」と答えた。

まとめ

- ▶ ①「家を出て学校（塾）で学ぶ」という当たり前のことに大きな価値があったことを実感。→自宅学習では、兄弟の多さや家の広さに大きく左右されてしまう。学校にすれば、同じ机、同じ学びが保証されている。
- ▶ ②リモート授業にしても、P Cの得意不得意は存在するので、保護者がそばにいないければ、より良い学習は成り立たない。
- ▶ ③無料塾の存在価値は、単なる「知識、勉強の伝授」ではなく、人の励ましや温かさを通して学習への意欲を高めることにあるので、「密」を禁じられている現在、運営が難しい状態にある。（単純にリモート移行すればいいということではないことを改めて実感）

補足（寄付金について）

- ▶ 寄付金は、例年より増えています。
- ▶ しかしながら、大学生奨学金の希望者も増えており、財政的な余裕は全くありません。
（預貯金が多少はあるため、来年潰れるということはありませんが、毎年赤字です、、、）
- ▶ 大学生奨学金とは、、、八王子つばめ塾でボランティア講師をすることを条件に、月額2万円、返済不要の奨学金を支給しています。現在6名。ほとんどがつばめ塾出身者です。